

政策・施策の立案に関する方法論と 行政経営システムの構築

By

高 知 工 科 大 学

社会マネジメント研究所

刈谷 剛 中川 善典 那須 清吾

社会技術研究会シンポジウム 第5回発表大会 (H20.11.15)

東京大学

NASU Lab.

All Rights Reserved, Copyrights©2008. Kochi University of Technology Nasu Lab.

■ 研究発表のContents

- 1. 研究の背景と目的
- 2. 行政のマネジメントサイクル
- 3. 行政経営システムの構築
 - 問題の構造化・ロジックモデル・経営システム—
- 4. 特定健康診査等実施計画の行政経営システム
 - 問題の構造化・ロジックモデルの実例—
- 5. 特定健康診査の実施率向上に関する
政策・施策の立案方法
- 6. 結論と今後の研究の方向性

1. 研究の背景と目的

●研究の背景

■計画策定に際し、

問題解決のための効果的な手法・方法論の欠如

⇒計画における目標達成に際し、明確な施策・事業の立案方法

⇒インプット・アウトプット・アウトカムの論理関係が不明瞭

⇒また、選択した施策・事業およびそのプロセス、

業績指標（数値目標）の評価手法が不十分

●研究の目的

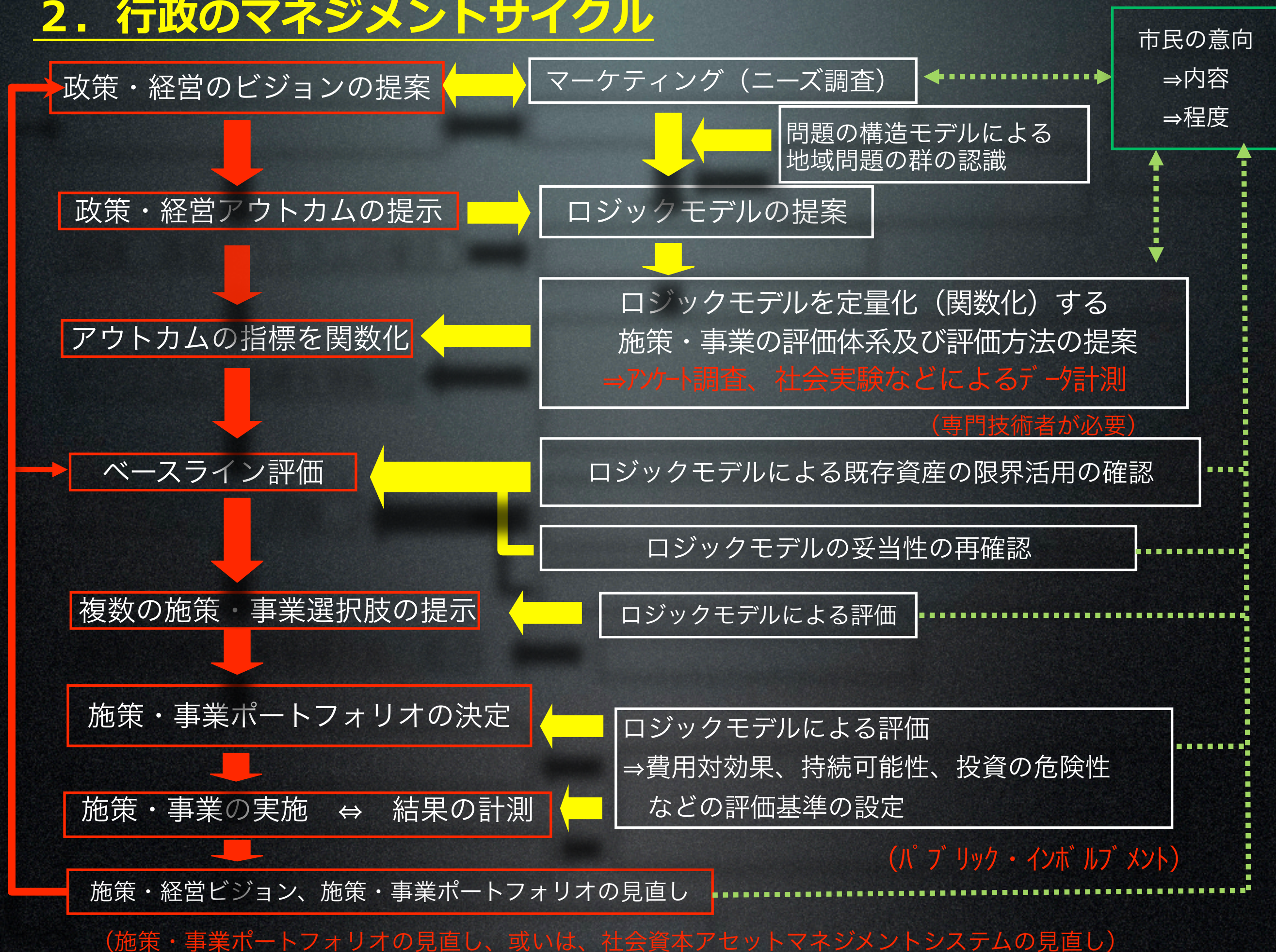
地方自治体の個別計画における、効率・効果的な政策・施策の立案方法

・問題の構造化およびロジックモデルによる政策・施策の立案

政策・施策・事業の提案方法に関する行政経営システムの構築

- ・政策目標アウトカムと施策アウトプットを論理的に結んだロジックモデルによる事業評価と、システムの見直し（メンテナンス）。
- ・地方自治体における経営システムを、行政と社会・市民との多面的な相互作用モデルにより構築。

2. 行政のマネジメントサイクル



3. 行政経営システムの構築

●これまでの各種計画策定の手法

- 具体的な戦略の欠如。
- アウトプットとアウトカムの関係を明示した明確な戦略モデルの欠如。
- 実績の評価および経営システムの見直しが困難。

➡ ●問題の構造化

- 関係する全ての諸要因を含んだ、問題の構造モデルを構築する。
- ステークホルダーの「認識」を収斂させるプロセスが必要。

➡ ●ロジックモデル

- 問題の構造を**要因・属性・環境**に分類し、**意識構造の論理部分**を抽出する。
- その抽出したモデルに、**政策・施策・経営要素**をリンクさせ、経営目標である**アウトカム**を効果的に達成するための方法を導く。
- 政策環境の変化や政策効果の出現を踏まえ、構築したモデルの**システムメンテナンス**を行う。

行政経営システム（行政と地域社会・市民の相互作用）

◆マーケティング調査

- ①ニーズ、問題構造を把握するため。
（アンケート調査・インタビュー）
- ②関係を定量化・関数化する。

- ・ 社会実験
- ・ 市場調査
- ・ 意識調査
- ・ 統計情報

■問題の構造モデル化

地域問題群の
認識

経営戦略
目標

政策・施策
構造

- 市民意識の構造モデル化
- 利害関係の構造モデル化
- 社会環境の構造モデル化

技術特性の
要素

目標のシステム化

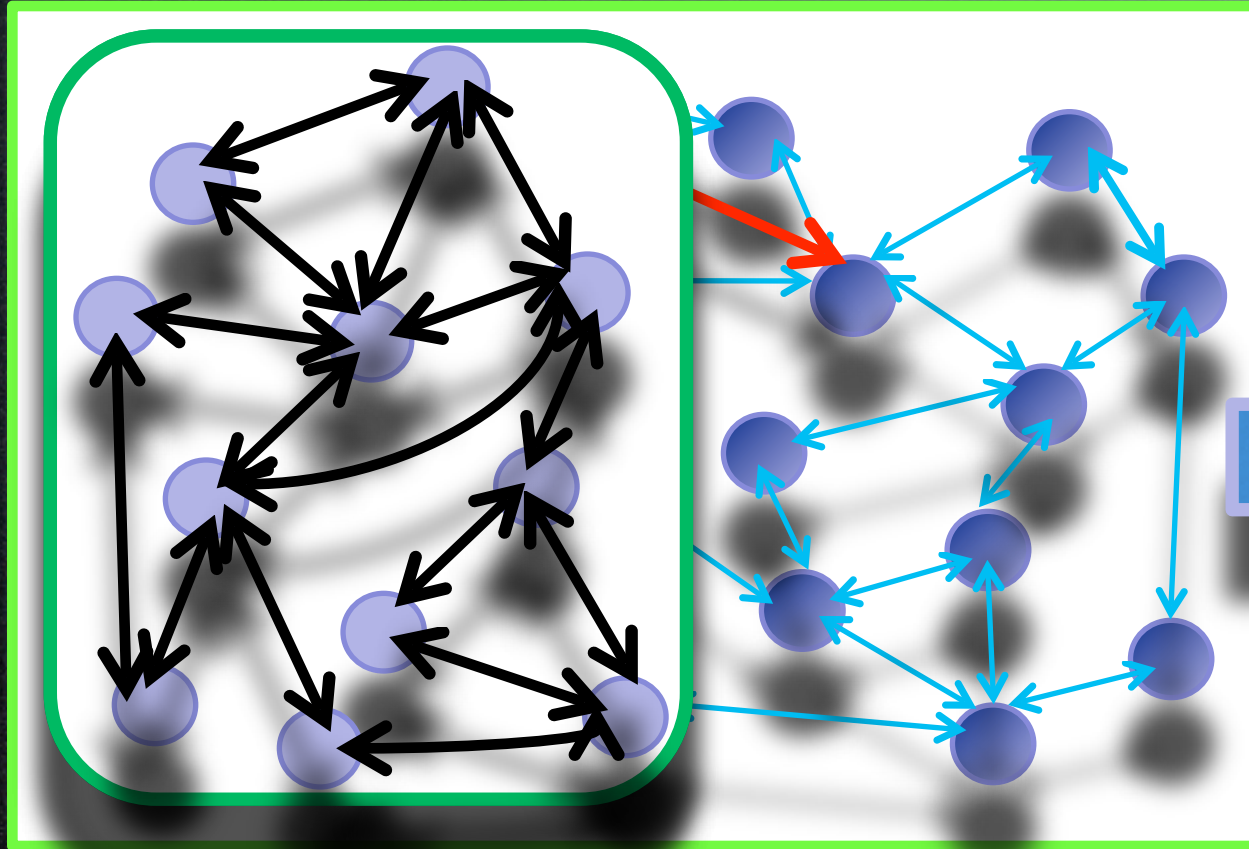
■ロジックモデルの構築

【ロジックモデルの定義】

ロジックモデルは、社会システム或いは経営システムの経営目標としてのアウトカムに対して、経営資源の活用方法や事業、サービス、施策などのアウトプットがどの様に関係し、貢献するかを論理的に表した体系図或いは論理モデルである。

■ 自然・社会現象から政策・施策・経営システム構築へのプロセス

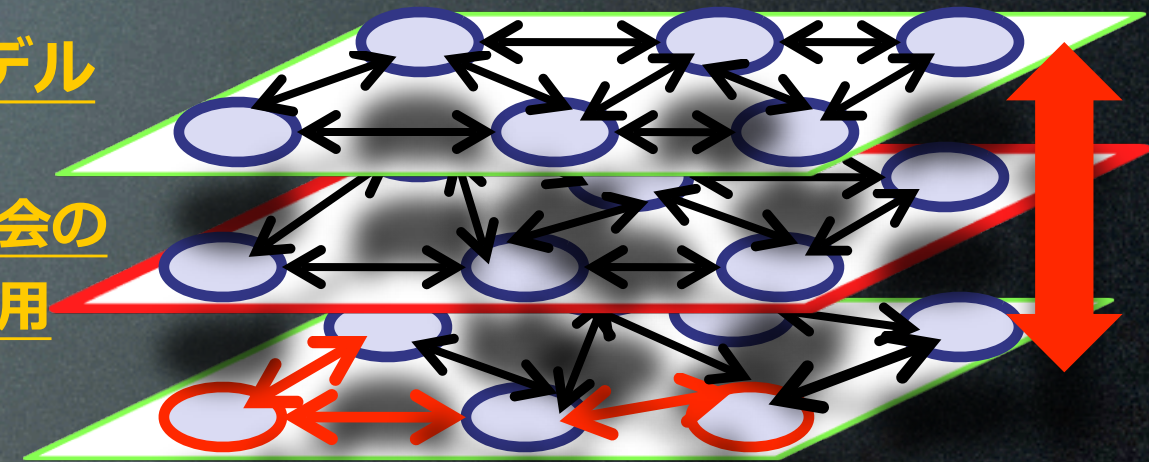
問題の構造化、問題領域の定義



現象モデル

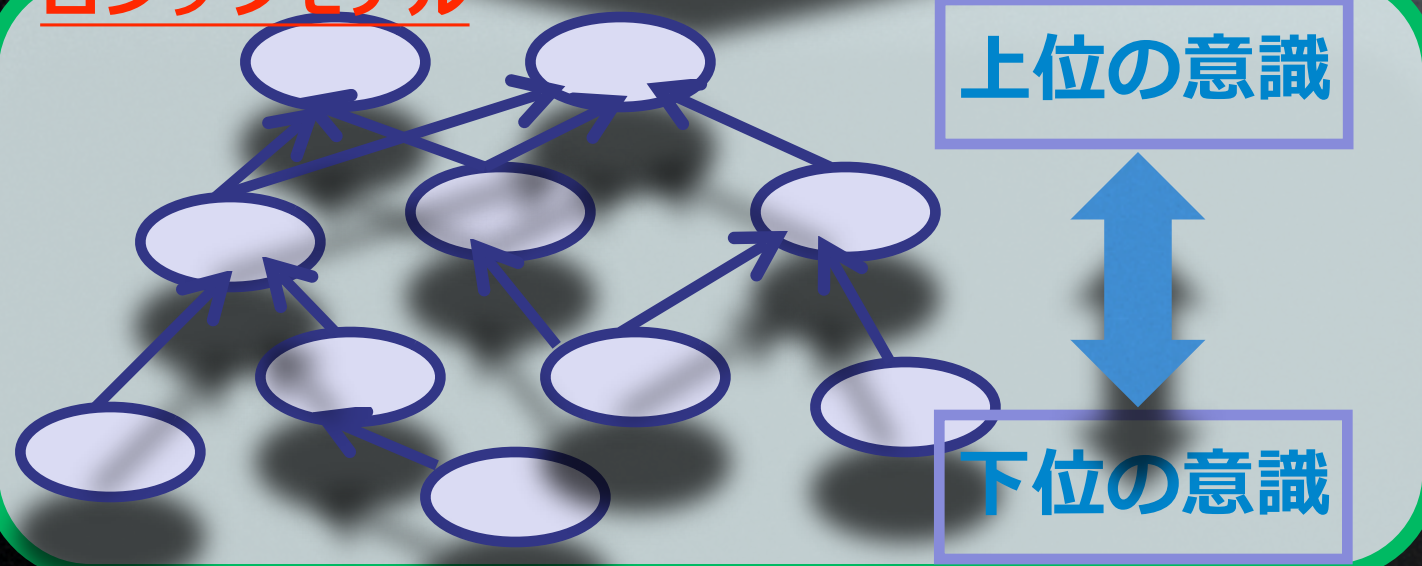
市民・社会の
反応・作用

政策・施策・経営要素



1. 要因、属性、環境に分類
2. 意識構造の論理部分を抽出

ロジックモデル



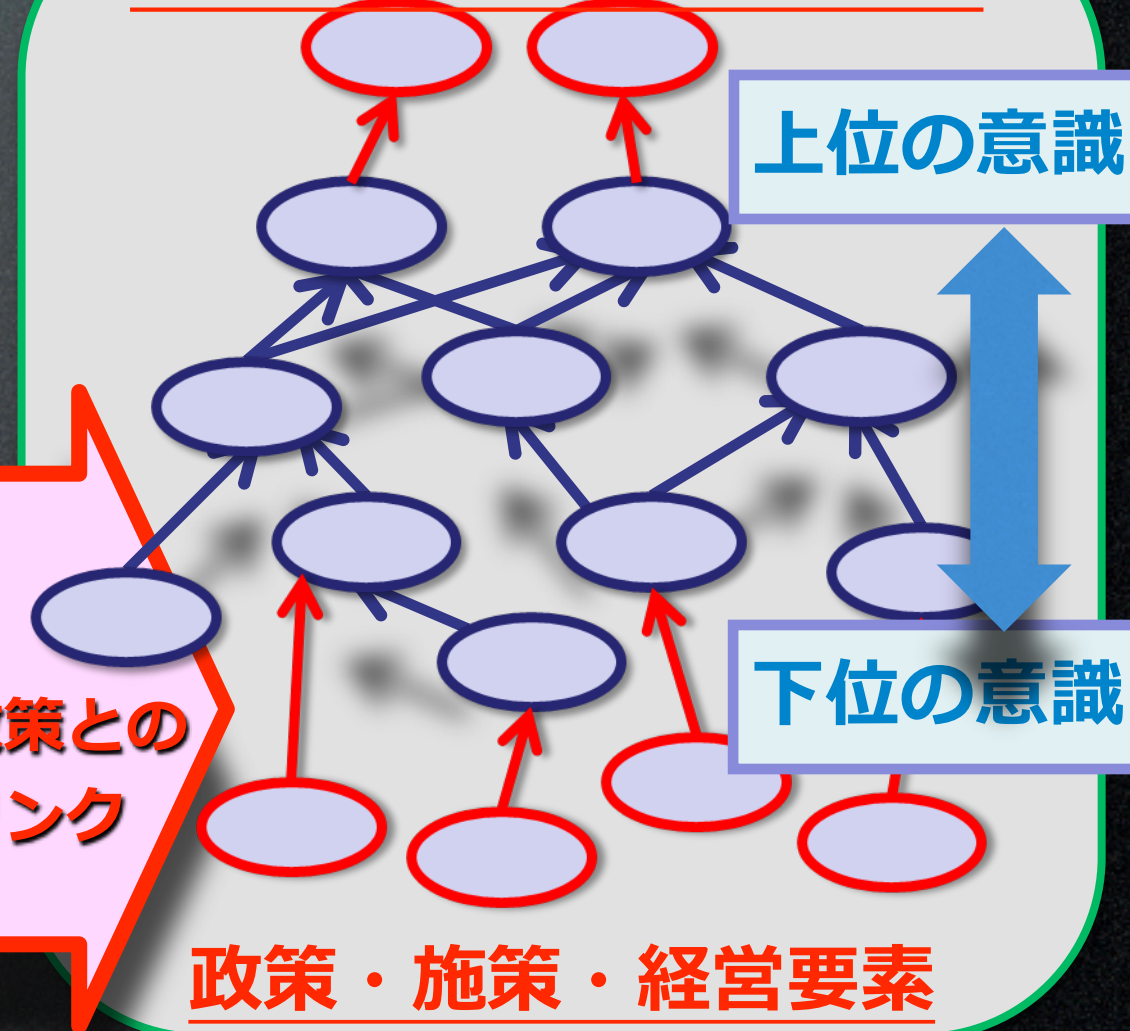
経営目標：アウトカム

上位の意識

下位の意識

政策との
リンク

政策・施策・経営要素



ロジックモデルとシステムメンテナンス(持続可能性の確保)

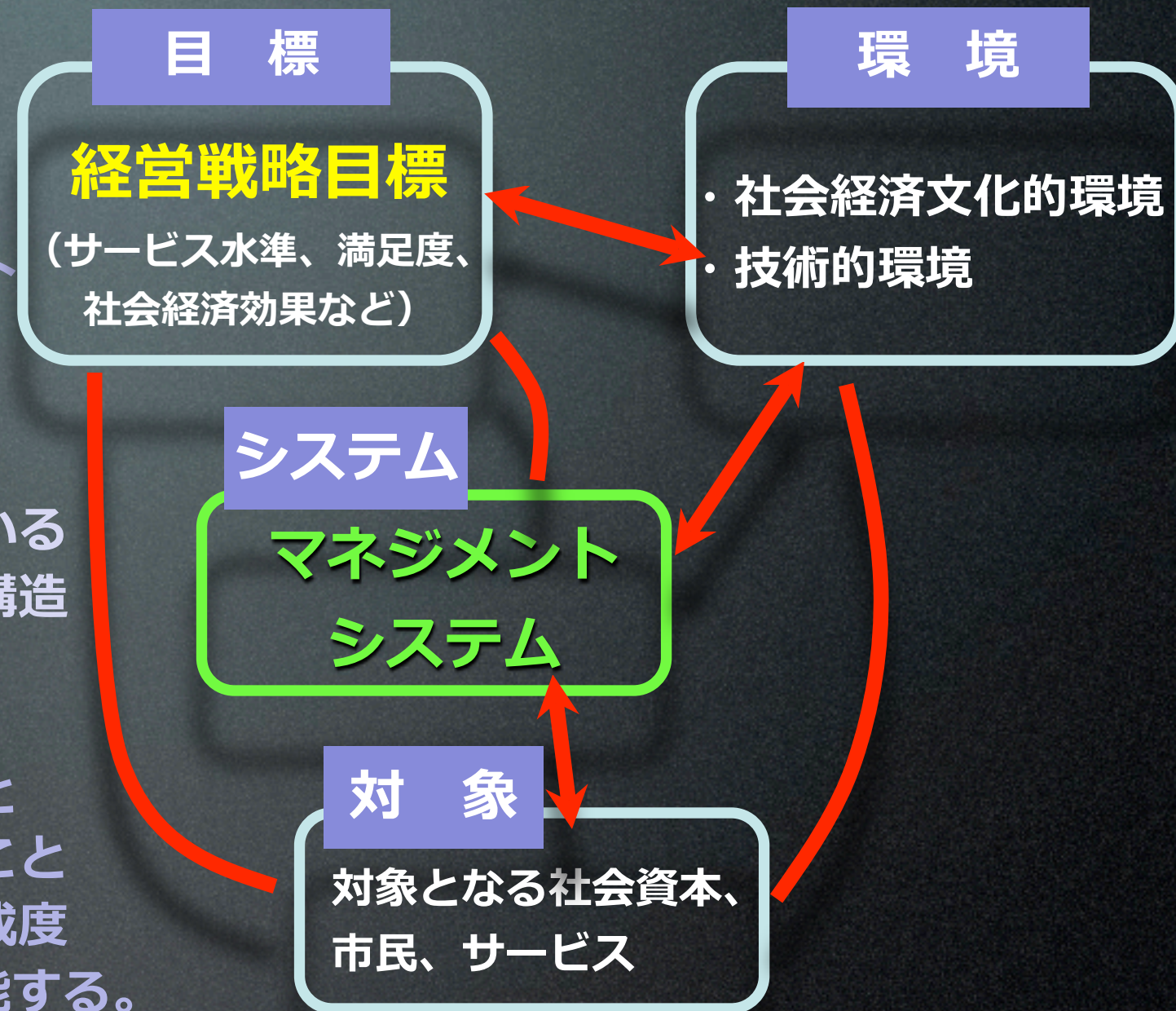
①ロジックモデルは、社会システム或いは行政経営システムの経営目標としてのアウトカムに対して、経営資源の活用方法や事業、サービス、施策などのアウトプットがどの様に関係し、貢献するかを論理的に表した体系図或いは論理モデルである。

②体系図或いは論理モデルの形態を持っているが故に、ロジックモデルは経営システムの構造そのものを示している。

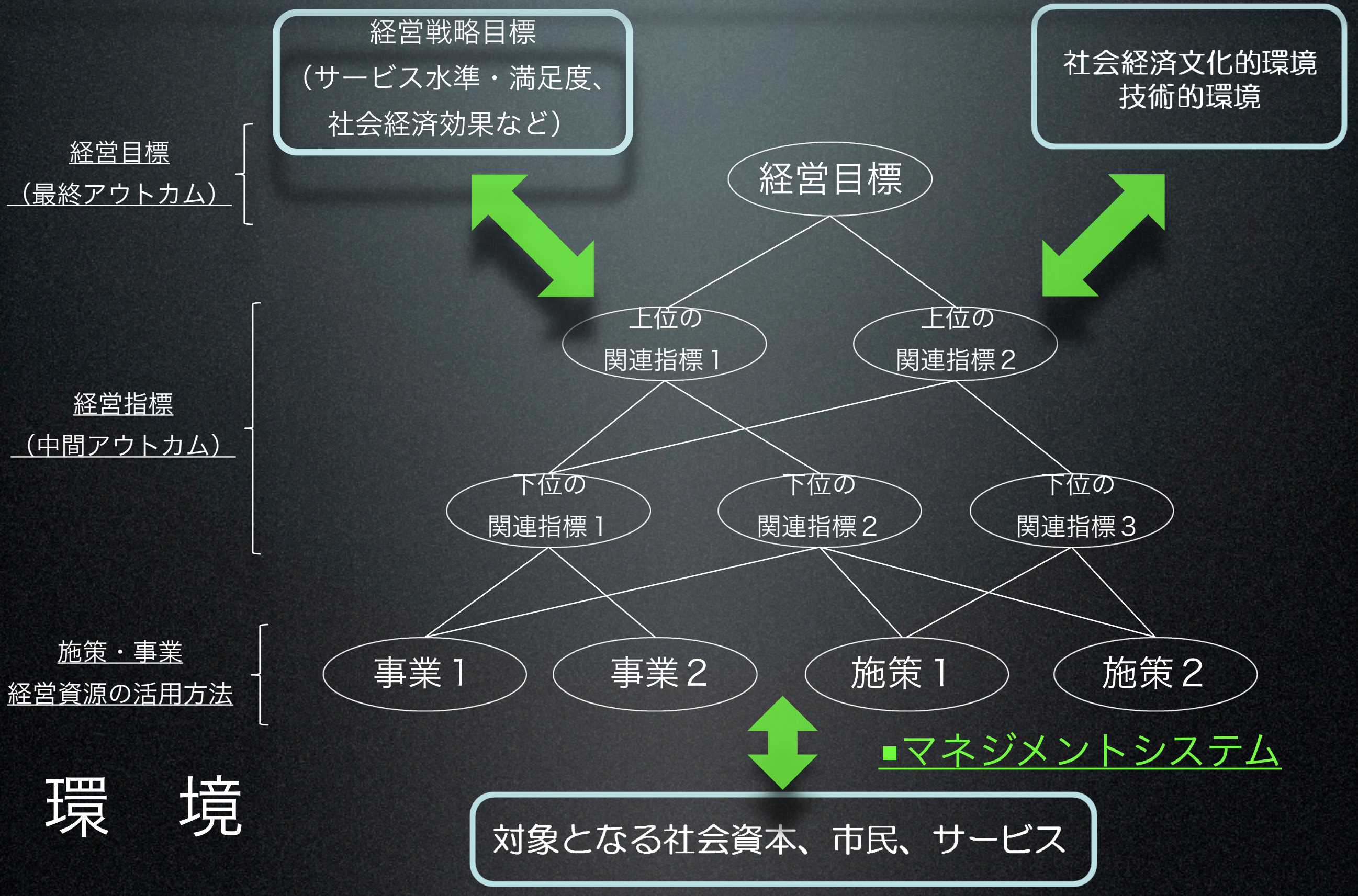
③ロジックモデルは、定性的な関係を示すとともに、定量的な関係を示すことも出来ることから、経営システムの経営目標に対する達成度評価、パフォーマンス評価の道具として機能する。

④ロジックモデルは、一定の社会環境、自然環境、技術環境の下で構築される経営システムの構造を示している。よって、行政経営における経営システムの確認或いは見直しの道具として機能する。

なお、ロジックモデルにおいて選択された事業、サービス、施策などの組み合わせは、経営目標を達成するポートフォリオを示している。



■ 行政経営システム



4. 特定健康診査等実施計画の 行政経営システムの構築

システム構築の事例) 特定健康診査等実施計画とは？

●概要

- 生活習慣病予防を推進する為、
「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき医療保険者は、
被保険者が特定健康診査及び特定保健指導を受ける様、
推進に努めることに。

●実施時期

- 平成20年4月1日より施行。

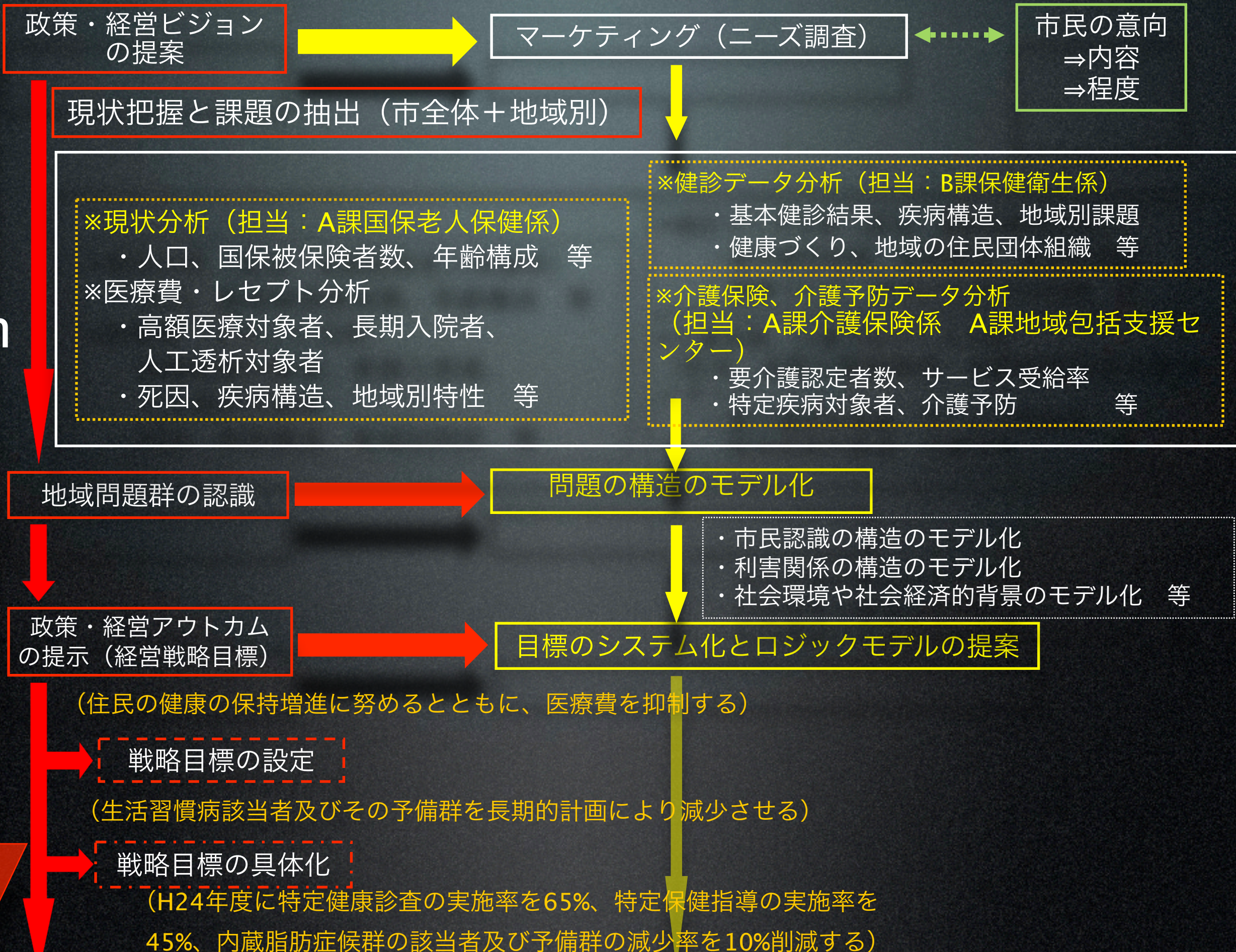
●計画期間

- 計画は、特定健康診査等基本指針に即して5年ごとに策定し、
定期的に見直しを行う。
- 第1期計画は、平成20年度～平成24年度。

●計画の目標値

- メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の有病者及び予備群を、
平成27年度までに、平成20年度比で25%減少。
- 特定健康診査の実施率を65%に。
- 特定保健指導の実施率を45%に。

Plan



Plan

アウトカム指標の関数化

ロジックモデルの構築

※問題の構造（分析抽出された課題）と戦略目標
をモデル化する

ロジックモデルの定量化（関数化）
による施策・事業の評価体系及び
評価方法の提案

⇒アンケート調査、社会実験などによる
データ計測

アンケート調査の作成と実
施（利用者・未利用者）

※ロジックモデルの
定量化のために、各
変数をアンケート調査から
導出し、設定

ベースライン評価

（※施策マトリックスの活用）

複数の施策・事業選択肢
の提示

ロジックモデルによる既存資産の限界活用の確認

ロジックモデルの妥当性の再確認

ロジックモデルによる評価

施策・事業ポートフォリオ
の決定

ロジックモデルによる評価
⇒費用対効果、持続可能性、投資リスク
などの評価基準の設定

●特定健診の実施計画、特定保健指導（※1）の実施計画書の公表

施策・事業の実施 ⇔ 結果の計測

※標準的な健診・保健指導プログラム
およびロジックモデルによるパフォーマ
ンスの計測

Do

●特定健診・特定保健指導の実施（H20.04月～）

目標

■特定健康診査等実施計画の問題の構造モデル（全体）Ver.1.00 保健師

平均寿命の延長

健康寿命の延長

医療費の減少

介護給付費の抑制・減少

母子保健事業の中での取り組み

介護保険料の高騰防止

生活習慣病該当者・予備群の減少

介護認定者の抑制

健康意識の向上

健診受診率の向上

虚弱高齢者の減少

医療機関との連携

特定保健指導の充実

早めに受診・早期発見

介護予防事業の充実

受療中の方への取り組み（保健指導の徹底）

未受診者対策

個別委託化の推進

日常生活行動の改善

高齢者の集い場の設定

健康意識を高めるための普及啓発

生活習慣病のコントロール改善のための健康教育

肥満児の減少

推進委員の育成

地区組織活動の育成

生きがい活動の充実

学校保健の中で食育とタイアップ

課題

健診の受診率が低い

個人の健康意識が低い

地区組織の活動の低下

平均寿命が全国平均以下（男性）

介護給付費が伸びている

医療費が高い（増加）

人工透析が多い

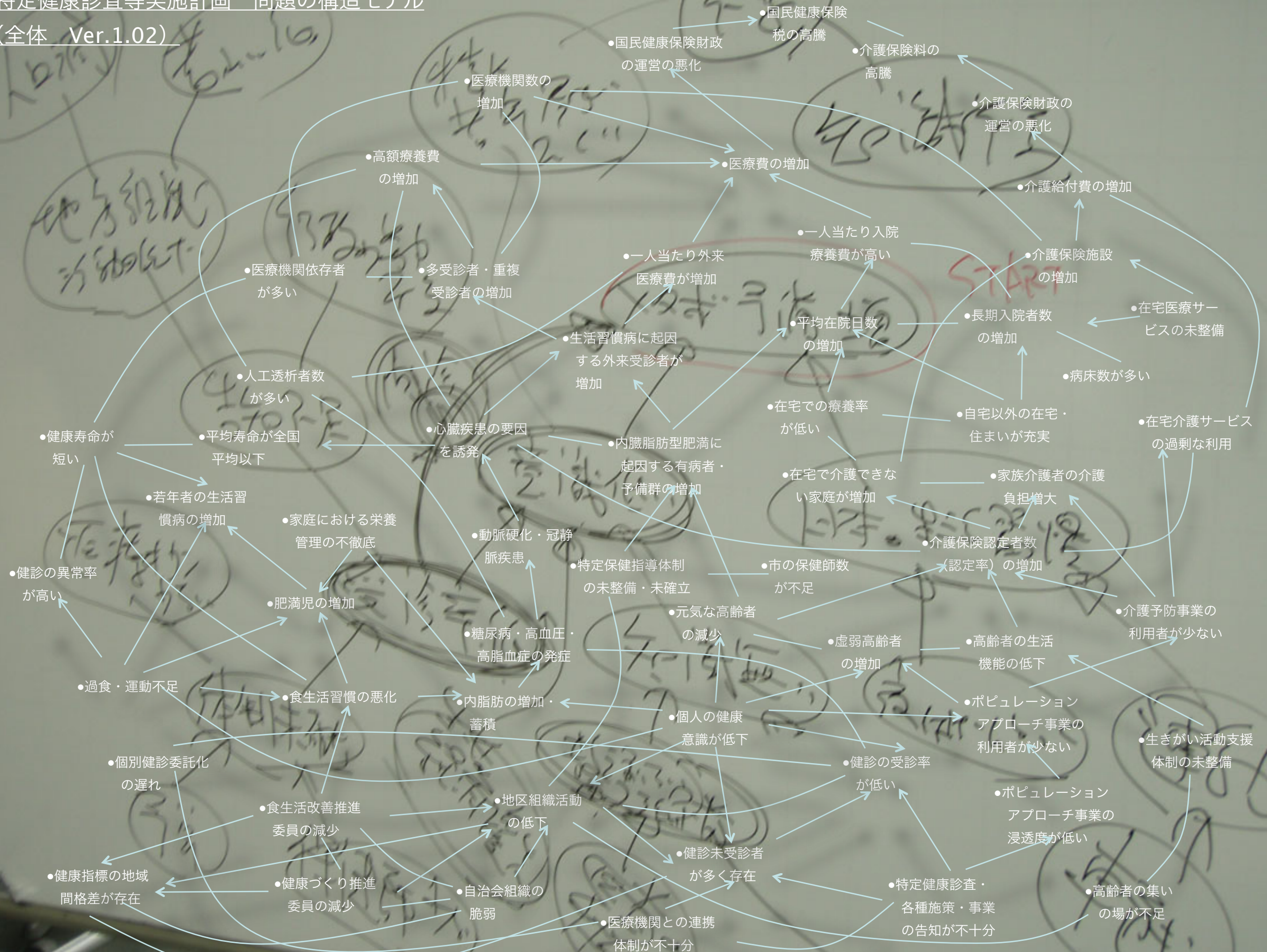
健診の異常率が高い

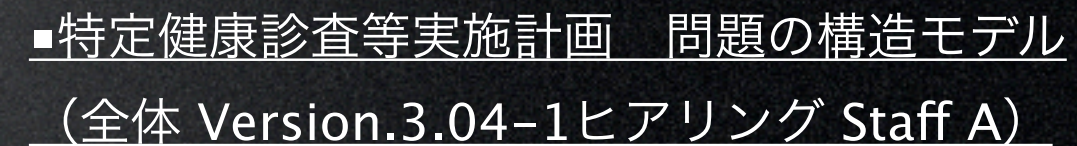
健康指標 地区により格差がある

若年の生活習慣病が増えている

介護認定者が増加

(全体 Ver.1.02)





■特定健康診査等実施計画 問題の構造モデル

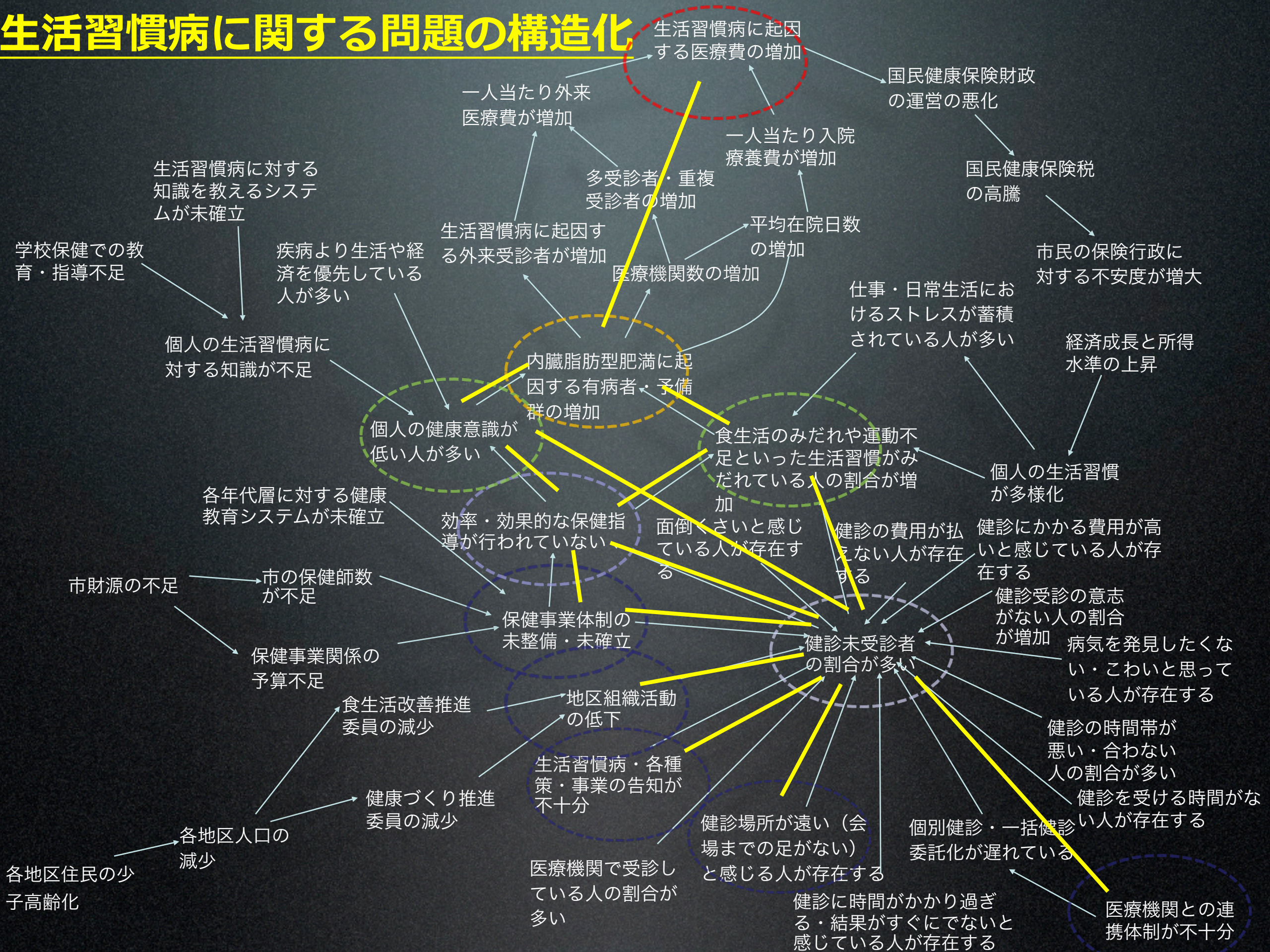
(全体 Version.6.02 M保健師ヒアリングより)



特定健康診査等実施計画に関する行政経営システム（問題の構造化）



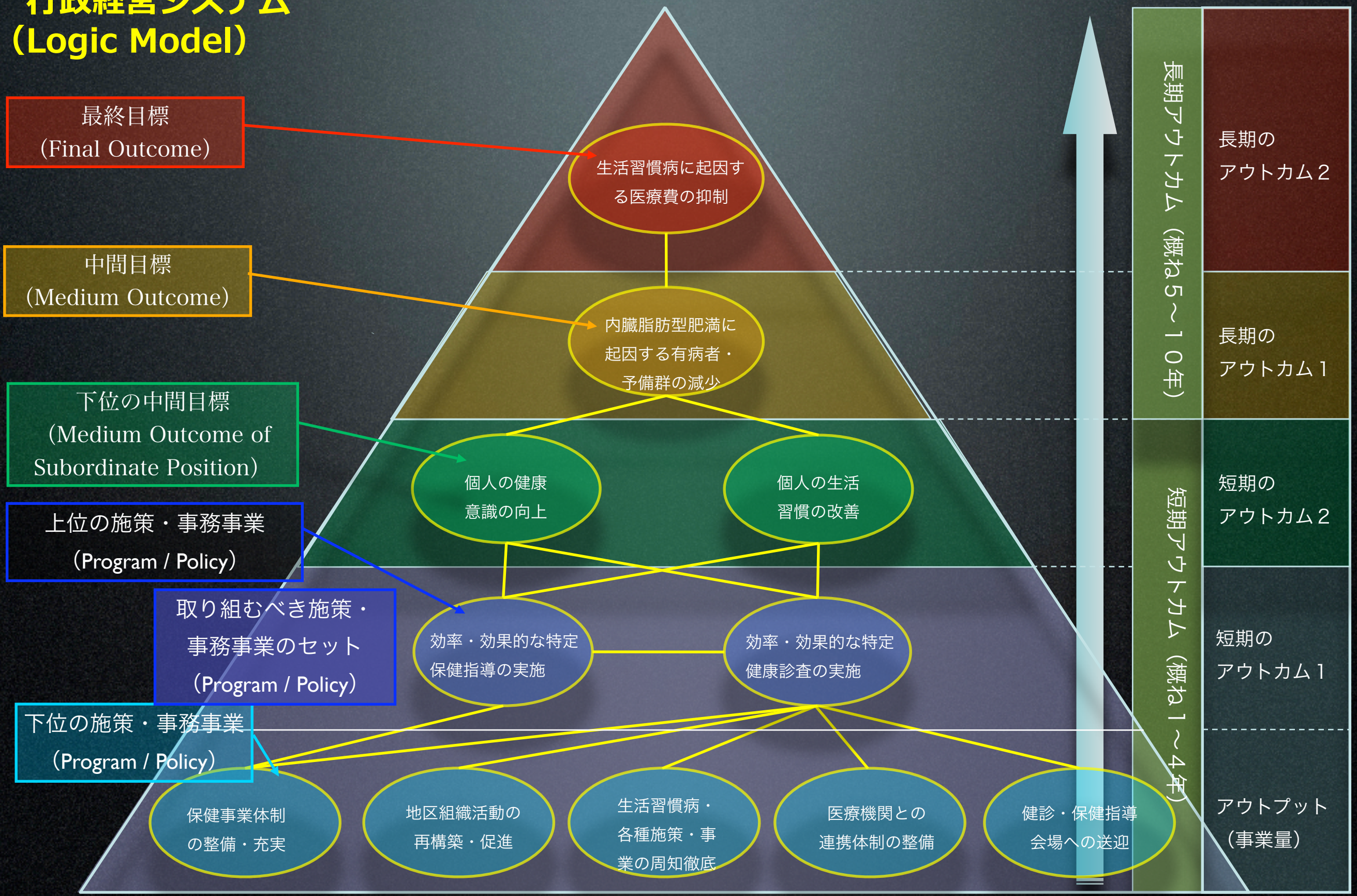
■生活習慣病に関する問題の構造化



特定健康診査等実施計画の
行政経営システム
(Logic Model)

■ 戦略目標 (Strategic Target)
市民の健康の保持と増進に努める

(計画・実施期間)



5. 特定健康診査の実施率向上に関する政策・施策の立案方法

■生活習慣病に関する問題の構造化



特定健康診査実施率 向上のロジックモデル

健 診 受 診 率
(実 施 率)

(Q38)

(Q13)
(Q36)

- 属性
- 1.年齢
- 2.性別
- 3.居住地区
- 4.家族構成
- 5.職業
- 6.受診状況
- 7.地理的条件
- 8.交通手段
- 9.年収
- 10.健診歴

(Q1)
(Q12) 受診必要性認知度

障 害

恐怖感

効 果

精神的障害

物理的障害

$f(x)=Re-Ob?$

経 済

生 活

死

病気発見

非 望

自意識

不信感

時 間

知識不足

時 間

移 動

(Q6)
(Q11)

(Q5)
(Q10)

(Q4)
(Q9)

(Q3)
(Q8)

(Q2)
(Q7)

(Q18)
(Q24)

(Q17)
(Q23)

(Q16)
(Q22)

(Q15)
(Q20)
(Q21)

(Q14)
(Q19)

(Q31)
(Q34)
(Q35)

(Q30)
(Q32)
(Q33)

(Q26)
(Q29)

(Q25)
(Q27)
(Q28)

個人医療費

生活利便性

生命危機

安心感

早期予防

諦 め

健康過信

健診への不信

健診結果手間

健診制度

受診時間

健診日時

交通手段

距 離

6. 結論と今後の研究の方向性

● 結 論

- アウトプットとアウトカムを論理的に明示した戦略モデルの構築
- 計画策定に際し、ステークホルダーの持つ「認識の相違」を情報共有
(本研究では、まず、組織内部のスタッフ間における認識のズレを共有)
- 事業実施計画を評価し、見直す (= メインテナンスする) 方法の構築

● 今後の研究の方向性

- まず、国保被保険者 (40～74歳の方) にアンケート調査を実施
- 特定健康診査の実施率を向上させるロジックモデルの関数化。
- 関数化されたロジックモデルに基づき、効果的な政策・施策の組み合わせを地方自治体に提案。
- 問題の構造化を通して、組織外のステークホルダーと問題の認識を共有。
- 特定健康診査、特定保健指導の実施状況及び実績結果をモニタリングすることにより、構築したモデルのシステムメンテナンスを行う。

Thank you for listening to my presentation!

ご静聴どうも有り難うございました。